

# 『身近だけれど、重要な「税」』

足立区立第十二中学校 三年二組

白井 涼乃

私は、普段税を軽くしか認識していませんでした。なので、税についての作文を書くにあたって、一から税について調べてみました。そうすると、税の世界は思ったよりも深いものであると分かりました。

そう思うきっかけになった点がいくつかあるので、挙げていきたいと思います。

一つ目は、そもそもの税の意義という点です。これまで私は、税のことを、最初にも述べたように「深くは分からないけど、社会や経済が成り立つため必要なもの」としか思っています。ですが、令和元年十月の財務省のサイトを見ると、税は一言でいえば「社会の会費」であると書かれました。これは、簡単にいえば、社会保障や福祉・防衛といった公的サービスを皆に提供するには、税を財源とする必要があるということです。

私は、このような事実を改めて知ったとき、税はこんなにも私たちの生活に密接しているものなのかととても興味深く感じました。

二つ目は、税の役割という点です。もちろん、一つ目の意義で述べた通り「社会の会費」「公的サービスを皆に提供するため」という役割もあります。ですが、それ以外にも重要な役割があるのです。

それは、「景気の調整」という役割です。公民的分野の資料『わたしたちの生活と税』によると、景気が良いときと悪いときを比べると税の動きに違いがあるそうです。例えば、景気が良いときには増税をすることで景気を抑えています。反対に、景気が悪いときには減税をすることで景気が上向きになるよう促すそうです。私はこの政策の仕組みを調べてみて、税を増やしたり減らしたりすることで景気が左右されるということはとても不思議だと感じました。また、そのようなことで景気が左右されてしまうということはなんだか恐ろしいものだとも思いました。普段何気なく「ああ、また増税するんだ」と思っていたけれど、その経済政策の裏には慎重な判断が隠れていると考えると、何だか他人事には思えないと感じます。

以上が、私が「税の世界は思ったよりも深いものである」と分かったきっかけになった点です。

とはいえ、七月現在の私は、まだ授業で習っていない部分でもあるので、まだまだ知らないことばかりです。なので、今回理解が深まった部分を糧としてこの先日常を過ごしていきたいと強く思います。